



CUSTOMER STORY

ユーザーの利便性と計画業務の高度化・効率化を両立

全社管理連結でデータを一元管理し、グループ全体の経営管理基盤を強化

業種：産業用製造

ソリューション：ファイナンス

1912年にポンプメーカーとして創業した大手産業機器メーカーの荏原製作所は、現在建築・産業、エネルギー、インフラ、環境、精密・電子の5つの分野で事業を展開している。同社はAnaplanを活用して、全社管理連結のインプットデータを一元管理。計画値に対する説明責任の明確化とデータ収集・分析におけるオペレーションの形式化・効率化を実現している。

集計・分析の高頻度化

予算データの集計・分析が従来の四半期単位から月単位で可能に

全社管理連結の実現

予算のExcel集計業務を廃止し、全社の財務諸表データを集約

説明責任の明確化

Workflow機能により、申請・承認フローを可視化し、操作履歴を管理

固定費予算管理から導入

荏原製作所は各部門の固定費予算管理を改善するために、Anaplanに注目した。経営企画部 経営管理課の高橋 小百合氏は、従来の課題について次のように語る。「既存システムでは、収集データのダウンロードに30分程かかっていたため、修正があるたびに毎回待たされるのが本当に大変でした」。2023年のAnaplan導入後は、収集データのダウンロードが30秒で可能になった。また、データ集計・分析を月単位に高頻度化できたことも大きなメリットだという。高橋氏は、「四半期単位から月単位で予算集計・予実分析が行えることで、データ分析の高度化はもちろん、各部門への細かいフォローアップが可能になりました」と話した。さらに、各部門で自分たちの予算と実績を即座に確認できることも大きいという。「Anaplanの導入により、閲覧範囲を絞り込むといった権限管理もしやすくなりました。今はユーザーがそれぞれの画面からCSVなどのデータにワンボタンで出力できます」と高橋氏は語る。

全社管理連結へ適用範囲を拡大

全社管理連結では、本社ならびに国内外の子会社（約100社）を対象に、PL、BS、CFデータのAnaplanでの集約管理を実現している。経営管理課の山本 龍政氏は「以前から全社で統一したツールでデータ収集をする構想はありました。その足掛かりとして、まずは固定費予算などにAnaplanを適用し、そこから全社管理連結へと拡大したいと考えていました」と当時の状況を振り返る。全社管理連結の実現には、全社で統一したツールを導入する必要がある。山本 龍政氏は全社統一のツールとしてAnaplanを採用した背景を次のように



四半期単位から月単位で予算集計・予実分析が行えることで、データ分析の高度化はもちろん、各部門に向けて、より細かいフォローアップが可能になりました。

経営企画部 経営管理課 高橋 小百合 氏

説明する。「Anaplanは、アジャイル開発で試作品をこまめに確認できたため、始めから要件定義をしすぎずに修正・確認を繰り返しながら開発できたのは非常にメリットでした」。また、「既に導入されていた予算編成ツールと比較してもAnaplanは動作が軽い。ユーザーの視点でも、動作が軽いに越したことはありません」と語り、2024年から全社管理連結を本番稼働して以降、リアルタイムデータ集計・分析においてAnaplanの高いパフォーマンスを評価している。

さらに、経営管理課 課長の渡辺 武志氏は、「以前はどこかの部門が数字を修正するたびに、Excelのパケツリレーが発生していましたが、データ収集からレポート作成まで一つのツールでできるAnaplanではその工数は不要です」と語る。経営管理課の山本 和仁氏は、「レポート作成の際は一週間弱の間、作業にかかりきりでしたが、Anaplan導入後は入力してもらったデータをダウンロードするだけになりました。これまで複数人で行っていた作業も、今は一人でやっています」と導入効果を話した。

Workflow機能で承認プロセスを可視化

さらに同社では、2024年からAnaplanのWorkflow機能を活用した、承認プロセスの可視化にも取り組んでいる。渡辺氏は、「既存システムにも承認機能はあったのですが、ユーザーからは

不評だったため、標準でWorkflow機能を搭載しているAnaplanでの解決を検討しました」と導入理由を語る。

また、代理申請によって説明責任が曖昧になるなどの課題も抱えており、経営管理課の布施 烈氏は、「誰が申請して、誰が承認したのかを可視化することが重要です。Anaplanであれば、ツリー構造になっているので申請と承認の履歴が一目瞭然です」とAnaplanのWorkflow機能を評価している。

全社展開が見込まれるAnaplan

今後、同社では設備投資予算についても、Anaplanを適用する予定となっている。また、ERPシステムの導入が進められており、渡辺氏は「Anaplanにはフロントの予算入力ツールとしての役割を持たせたい」と今後を見据えている。

また、情報通信統括部 コーポレートシステム部 会計・人事システム課 星子 裕氏は、「ユーザー自身がデータを直接入力し、必要なデータを出力できることがAnaplanのメリットだと思っています。また、情報収集するだけでなく、シミュレーションの機能を持つことも大きいです。全社的に標準化したツールを使い倒したいと考えていますので、経理や人事はもちろん、他の部門でもシミュレーション機能を活用できたらいいですね」とIT担当部門の視点で将来への展望を語った。

Anaplanについて

Anaplanは、企業が競争を凌駕できるよう、今日の複雑なビジネス環境における意思決定を最適化するために設計された唯一のシナリオプランニングおよび分析プラットフォームです。組織のサイロを超えたつながりとコラボレーションを構築することによって、私たちのプラットフォームは重要なインサイトを賢く浮き彫りにし、企業が今すぐ正しい意思決定を行えるよう支援します。

2,500以上の世界のトップブランドがAnaplanでプランニングをして意思決定を最適化しています。

詳しくは、こちらをご覧ください。
www.anaplan.com/jp